

重油価2.4倍「漁に出れば赤字」

中国地方
あすから 186隻 窮状訴える

イカ釣り船一斉休漁



燃料価格が急上昇する中、中国地方の日本海側の小型イカ釣り漁船百八十六隻が十八、十九の両日、一斉に休漁する。消費者に窮状を訴えようという全国いか釣漁業協議会（東京）の呼び掛けに応じた。燃料のA重油は五年前と比べ約二・四倍になる一方で、魚価は低迷が続く。漁業者は「漁に出れば赤字」と悲鳴を上げている。

（河野場）

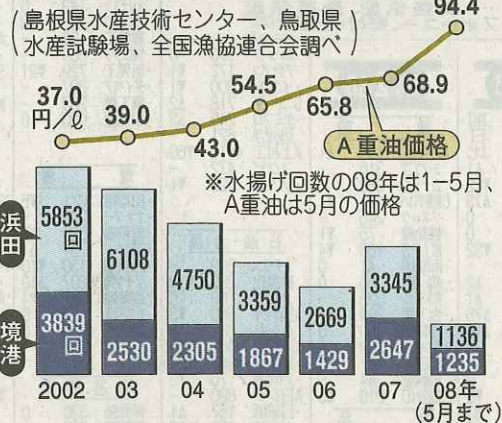
原材料高騰

十三日の鳥取県営境港水産物地方卸売市場（境港市）。松江市の漁業永田重俊さん（53）は浮かない表情でスルメイカを水揚げしていた。この日の水揚げ量は三十箱分の約三万円。燃料費は約十一万。水揚げするイカ釣り漁船（十三日、境港市の鳥取県営境港水産物地方卸売市場）

万円もかかり、約八万円の赤字だ。「赤字が増える一方だ。すぐにでもやめたいが、借金を返さないといけないし」。エンジンの回転数を減らしたり、イカを集める水銀灯の発光を抑えたりして節約しているが、乗組員の給料も払えないという。今年に入り、漁業仲間の三隻が廃業した。永田さんは「燃料費が上がっても魚価は競りて決まるため、収入は増えない。十七年間の漁業生活で初めての事態」と嘆く。イカ釣り漁は操業時間が長く、夜間に水銀灯をつけるため、燃料高の影響を受けやすい。全国漁協連合会によると、五月のA重油は一斗当たり九四・四円で五年前の約二

・四倍になった。漁業者が出漁を控えたこともあり、山陰有数の漁港である境港市と浜田市の二〇〇七年の水揚げ回数は五千九百九十二回と五年前に比べ38%減った。浜田市でイカの一本釣りをする漁業本田一夫さん（71）は「燃料費が高くなり、あまり漁に出なくなつた」と話す。全国いか釣漁業協議会が呼び掛けた一斉休漁に中国地方で加わるのは、山口県十四隻、島根県十一隻、鳥取県六十二隻。

境港と浜田の小型イカ釣り水揚げ回数とA重油の全国価格



島根県では十未満の会
員以外の漁業者の九十九

隻も休漁を決めた。JFしまね（松江市）は十六日、燃油価格高騰緊急対策本部を設置。七月中旬にはイカ釣り漁以外も含めた全漁業者で一斉休漁を予定している。こうした休漁が続けば食卓に影響する恐れもある。広島市中央卸売市場（西区）の荷受けの広島水産（同）は「天然物の入荷が少なくなれば、高値が続くかもしれない。冷凍物の仕入れを増やして対応したい」としている。